



【先週 9月29日～10月5日の外食の出来事】

■コロナ禍、大戸屋の筆頭株主に 創業家から約30億円で取得

外食大手のコロナ禍は1日、定食店「大戸屋ごはん処」を展開する大戸屋ホールディングス(HD)に出資した。発行済み株式の18.67%(議決権ベース)を同日、創業家から約30億円で取得し、筆頭株主になった。

■あみやき亭の4～9月、純利益23%減

2019年4～9月期の連結決算は、純利益が前年同期比23%減の7億7500万円だった。人件費や肉の仕入れ価格が上昇した。新規出店効果で売上高は1%増の161億円だったが、コスト増で営業利益も2ケタの減益だった。

■吉野家、業績を上方修正 3～8月最終、「超特盛」など好調

2019年3～8月期の連結最終損益が18億円の黒字(前年同期は8億5000万円の赤字)になったと発表した。従来予想は5000万円の黒字。主力牛丼店の吉野家で「超特盛」など新メニューを投入し、販売数量を伸ばした。

■壺番屋の3～8月、純利益20%増 カレーの値上げ効果で

2019年3～8月期の連結決算は、純利益が前年同期比20%増の19億円だった。今年3月にポークカレーなどの主力商品を一部値上げし、食材費や人件費の上昇を吸収した。同期間では営業段階から過去最高益となった。

■ジョイフル、全店舗でプラスチック製ストローの提供を順次廃止

同社では、世界的な問題となっている「プラスチックゴミの廃棄による海洋汚染」への取り組みとして、現在使用しているプラスチック製ストローの使用を全店で廃止する。要望があった際には、環境に代替素材のストローを提供する。

■レイズ、関東エリアの6ブランドで定額飲み放題サービスを開始

購入日から1ヶ月間、2時間飲み放題が、何回でも使用可能な月額定額制飲み放題チケット(4,000円/税込)を専用サイトで販売。なお、同伴者には、来店ごとに一人1,000円(税込)の特別価格で同様の飲み放題を提供する。

■フォーシーズ、居酒屋業態が「キャッシュレス・消費者還元事業」に参加

居酒屋業態の「串かつ でんがな」「やきとん あさちゃん」「鉄板酒場 鐵一」「BACHI」は、経済産業省の「キャッシュレス・消費者還元事業」に参加し、対象となるキャッシュレス決済で、最大5%の還元を10月1日より開始した。

■コロナ禍、国内グループ店舗にスマホアプリ決済サービス「メルペイ」を導入

コロナ禍は、「甘太郎」「北海道」「かっぱ寿司」「ラ・パウザ」「轟真屋」「ステーキ宮」「カルビ大将」など同社グループが運営する44ブランド1,072店舗にて、スマホアプリ決済サービス「メルペイ」を9月30日に導入した。

■梅の花、第1四半期(2019年4月～7月)の連結業績

2020年4月期 第1四半期の連結業績は売上高80億5300万円(対前年同期比-)、営業損失2億8600万円(-)、経常損失3億600万円(-)、親会社株主に帰属する四半期純損失4億7400万円(-)であった。